

歴史は未来の羅針盤



『近江日野の歴史』第六巻「民俗編」を刊行しました。本書は、第一章 地域の暮らし、第二章 人と家の暮らし、第三章 四季の祈り、第四章 日野の祭り、第五章 伝承の文化からなります。各章ごとの概要をご紹介します。

今回は、生活文化の基本となる家・家族、暮らしぶりそのものとも言える衣・食・住、人生儀礼などを取り上げた、第二章「人と家の暮らし」の概要についてご紹介します。

### 家と家族

第一節は「家と家族」と題して、家や家族の伝統的な仕組みを取り上げています。

人びとは家族と呼ばれる近親者で家を構成し、日常生活を営んできました。それぞれの家には特有の屋号や家風、先祖をまつる墓地や仏壇があり、また生活を維持していくために必要な家業がありました。「家系」という言葉があるように、家は先祖から子孫へ永続的に継承されるべきものと考えられてきました。それゆえに、家のためには自己を犠牲にしなければならぬということもありました。

戦後、産業構造や生活様式の激変に伴い、家のあり方も大きく変化しましたが、家に対する伝統的観念は今なお人びとの意識の奥底に根強く残っています。

### 衣食住

第二節は「衣食住」と題し、衣生活・食生活や住環境を取り上げています。

現在、私たちは「万事に手のかからない、便利な暮らし」のなかで生きています。ここでは、さまざまな商品があふれ、モノが作られる過程を目にする機会はほとんどありません。

しかし、少し昔までは、生活の大半を自分たちの労働でまかなう自給自足の生活が営まれていました。本節では、高度経済成長期以前の「きもの」「たべもの」「すまい」の様子について、聞き取り調査をもとに詳しく紹介しており、人びとの創意と工夫にあふれた日常生活

活を再現しています。

### 人の一生

第三節は「人の一生」と題し、人が誕生してから死去するまでの間に行われたさまざまな儀礼を取り上げています。

人生儀礼は、その段階に応じて大きく四つに分かれます。第一は、生育段階の儀礼で、子どもの健や



▲落神社への宮参り（西大路）

かな成長を願って宮参り、節句などの行事が行われます。第二は、青年期の儀礼で、一人前の大人として共同体の構成員となるために、元服式・結婚式が行われます。第三は、成人段階の儀礼で、厄年に厄払いを行ったり、還暦や米寿などに歳祝いと称する祝賀式を行ったりします。第四は、死霊段階の儀礼で、葬殮や年忌供養などがこれにあたります。

人生儀礼は、単に家の行事として行われるだけでなく、一族や村・町など社会的な広がりをもって行われました。こうした儀礼のありようは、人びとの伝統的な死生観や社会観を映し出す貴重な文化遺産といえます。

### 暮らしの知恵

第四節は「暮らしの知恵」と題し、人びとが生活していくうえで、よりどころとしてきた身近な「知恵」のうち、民間療法と暦を取り上げています。中には迷信的な知識も含まれていますが、民間薬や食べ合わせの知識、二十四節気や六曜といった旧暦の知識など、現在にも受け継がれている知識を多数紹介しています。